未来予想図（みらいよそうず）

寝屋川市立梅が丘小学校　　２０２３・９・１５

校長室通信　　No. ２１

梅が丘小学校が

「大阪メチャハピー祭」に出場し続ける理由（わけ）は・・・

今年度で第24回目を迎える「大阪メチャハピー祭」ですが、梅が丘小学校はその第１回目から、出場し続けてきました。24年間もの長い間、梅が丘小学校が、この大会に出場し続けている「理由（わけ）」は、いったい何なのでしょうか。

先日、机の中を整理していると・・・、メチャハピー祭の大会出場に際し、数年前の高学年担任の先生が作成して大会本部に提出した「エントリーシート」のコピーが出てきました。そのシートの中に、これまで梅が丘小学校に勤務されてきた多くの先生方の熱い思いが記されていましたので、ここに、その内容を紹介させていただきます。

数年前に、高学年の担任の先生が作成し、大会本部に提出したエントリーシートより・・・

１．メチャハピー祭に参加する理由について

梅が丘小学校は、第１回メチャハピー祭に出場した際に掲げた「友絆（ともほだし）」の精神を、代々、大切にして練習に取り組んでいます。

この言葉は、「ソーランは、友との絆（きずな）があるからこそ、でき上がる。そして、ソーランが完成したとき、本物の友との絆ができる。」という意味をこめて、当時の児童が考えたものです。この精神を大切にしていく中で、「しんどい時こそ声を出す」「声で体を引っ張る」「一生懸命はかっこいい」という言葉がさらに生まれ、今も、梅が丘小学校のソーランを通して受け継がれています。

メチャハピー祭は、「一生懸命に取り組むことの価値」や「他者を思いやる態度」「話を聴く姿勢」「あいさつ」をはじめ、学校を創る高学年として、そして、人として大事なことを「学び合う場」として、絶好の機会だと考えています。

２．群舞を通して学んだこと（辛かったこと、嬉しかったこと等）

衣装の手作りのハッピは、決して見栄えのするものではありませんが、梅小ソーランの誇りを纏い、全員で、「一生懸命に踊る姿」を、先輩から後輩へ代々受け継いできました。

時おり、「そろそろ、新しい振り付けもどうか。」という声もいただきます。しかし、身につけていきたいものは、【踊り方】や【衣装】などではありません。「ソーラン【を】学ぶ」のではなく、「ソーラン【で】学ぶ」。「時間を守る大切さ」「関わりの少なかった友だちと励まし合う姿」「6年生が5年生にソーランを教え、学び合う姿」「言葉で伝えるだけでなく、背中で語る姿」など、ソーランを通して子どもたちが成長していく姿がありました。だからこそ、今はまだ、受け継いだ踊りや衣装のままで追求していきたいと考えています。

３．チームの絆をどんな時に感じましたか。（先生と児童、児童同士、家族と児童）

【ソーランはたくさんの人の協力の上に成り立っている、当たり前ではない。】

ソーランの朝練に参加するために、朝早くにご飯を用意してくれて笑顔で送り出してくれる【家族】、子どもの学びになるように手立てを考える【教師】、ボランティアの協力で成り立っている【メチャハピー祭】、そして、辛いときに支えてくれる【仲間】。

どれが欠けても、ソーランは成立しません。メチャハピー祭に関わる全員が【子どもの成長を願い】、一つのゴールに向かって進んでいるところに、チームとしての【大きな絆】を感じています。

また、梅が丘小学校では、運動会や地域のお祭りなどで、中高生の先輩や地域の有志団体とともにソーランを踊る機会が、数多くあります。「子ども」と「大人」、「学校」と「地域」という枠を超えて一つのことに取り組み、年齢を超えて、たたえ合う姿も、【地域の絆】として誇りに感じています。

これまで、長きにわたり受け継がれ、たくさんの人たちに大きな感動を与えてきてくれた「梅小ソーラン」ですが、今年度をもって最後の演舞となります。

５・６年生のみなさんが、これまでの先輩方の想いを胸の奥にしっかり刻み、大阪城ホールで光り輝いてくれることを、心から願っています！！

9月 12 日（火）1・2限 5・6年生合同の練習風景です!!